

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷恵策 SJ

47

第十三幕 第2場

キプロス島に向かうネグローナ号甲板にて

1523年8月14日

登場人物：巡礼者 イニゴ

ディエゴ・マニェス：聖ヨハネ騎士団の司令官

スペイン人司祭

ピエール・フスリ

フィリップ・ハーケン

船長 ベネデット・ラガッツォーニ（ネグローナ号船長）

船長 ジャコポ・アルベルト（キプロスーヨッパ間）

[語り] 1523年7月14日ヴェネツィアを出帆したネグローナ号は、イニゴたち8人のエルサレム巡礼者を乗せて地中海を西に向かって航海していました。8月1日にはアルバニアを遠望し、クレタ島のカンディアに停泊した後、一路キプロス島に向かい、8月14日ファマアグスタ港に近づきました。

ベネデット・ラガッツォーニ船長：ああ、パードレ、皆さんお揃いで甲板に出

ておられましたか。巡礼者方に折り入ってお話があり、探していました。

スペイン人司祭：船長さん、あそこにかすかに見えるのはキプロス島ですか？

ベネット船長：そうです。今日中にファマアグスタ港に入港できるでしょう。

ピエール・フスリ：ヴェネチアを出てからちょうど1か月目ですね！

ベネット船長：はい、そうです。途中凧になったりして進まないこともありま

したが、最後は強い東風が後押ししてくれました。サンタマリアのおかげです。

司祭：イニゴさん、キプロス島まで真っ直ぐに無事私たちを運んでくださった

神に感謝しなければなりませんよ。あなたを小島に置き去りにするたく

らみを実行する暇がありませんでしたからね。

イニゴ：本当におっしゃる通りです。

神はこの度も私たちをお守りくださいました。

司祭：これからも、神が私どもの巡礼の旅をお祝しくくださるよう祈りましょう。

ディエゴ・マニェス：船長、われわれに話があるということでしたが。

船長：はい、そうなんです。

実は困った情報が入りまして、心配しているのです。ベイルート付近で

疫病が流行っているという知らせを受け取ったのです。それでベイルー

トに船をつけるのは極めて危険だという結論になりました。

マニェス：それは困ります。約束が違うではありませんか？

ピエール・フスリ：初めの約束では、知事たちとその家族がキプロスで下船した後、我々をバイルートまで送ってくれることになっていましたが。

マニェス：そこから我々は陸路、ガリラヤを歩いてエルサレムまで歩くことにしているのです。ネグローナ号に是が非でも バイルートまで行っても
らわないと困ります。

船長：お約束通りお連れしたいのは山々なのですが、何せパンデミックに襲われているとのことで どうしようもないのです。

司祭：三蜜を避け、マスクをつけ、風通しを良くするなどの対策を守ること
で疫病に対処することはできないのでしょうか？

船長：申し訳ありませんが、感染症がペストだとするとワクチンもないし、防
ぎようがないのです。エルサレムに行くにはバイルートを避けて、船で
もっと南まで行き、カイサリアかヨッパに上陸する方がいいでしょう。

ディエゴ・マニェス：問題はそこまで行く船ですよ。ネグローナがどうしても
だめだとなると、どこで南に行く船を探せますかね？

イニゴ：必ず何かの手立てがあるはずですよ。神が今まで通り、必ず助けてくださ
います。

ラガッツォーニ船長：南行きの船は、ここファマアグスタよりも、ラスサリーナスまで行った方が見つけやすいでしょう。ここから30マイルほどです。

イニゴ：そこまで歩きましょう。神は必ず、船を用意してくださるでしょう。

司祭：キプロス島を歩くのも 巡礼うちの中です。昔、使徒聖パウロ、聖バルナバ、聖マルコもこの島で宣教しました。神がヨッパ行きの船を用意してくださいますように。

第十三幕 第3場

ラス・サリーナス（現代の Larnaca）にて

ディエゴ：ああ、ラス・サリーナスの港が見えてきました。

イニゴ：この丘を下ったら、もう海辺ですね？

司祭：もう一息です。ヴェネツィアから船ばかりで、しばらく歩かなかったので少し疲れしました。

ディエゴ：私もそうです。・・・おや？あそこに泊まっている船見たことがあるぞ。

ピエール・フスリ：どの船ですか？

ディエゴ：向こうの埠頭の右から二番目の船です。　・・・　いいえ、その隣のもっと小さな船です。

司祭：ああ、あれは巡礼船ですよ。我々より先にヴェネツィアを発った。

フスリ：本当だ。我々より 2 週間早く、聖ペテロの日にヴェネツィアを発ったのに、ここで何をしているのだろう？

イニゴ：何か、私たちを待っていてくれたようにも見えますね？

ディエゴ：そうですね。是非とも乗せてもらいましょう。

【語り】一行 8 人は、その巡礼船に向かって小走りに近づいていきました。一番乗りをして縄梯子を上って甲板にたどり着いたフスリの声が聞こえてきます。

フスリ：やあ！ハーケンさん。お久しぶりです。先発の皆さんはお元気ですか？

私たちより先に出帆したのにまだキプロスにいるのですか？

ハーケン：ああ、フスリさんではないですか？日焼けして、元気そうですね！

我々はここで足止めを食っているんですよ。キプロスで大半の乗客がおりてしまったので、少人数の巡礼者のために航海を続けるのを渋っているのです。

フスリ：我々の事情と似ていますね。ネグローナ号はファマアグスタまで我々を乗せてきたんですが、ベイルートまではいかないということで、聖地まで行く船を探しにやってきたのです。巡礼者8人みな歩いてきました。

【語り】二人が話している間に、イニゴたち一行が次々と乗船し、甲板に上がってきました。先着の13人の巡礼者が出迎えて、しばしの間、再会を喜び合いました。この船の船長ジャコポ・アルベルトも急ににぎやかになった甲板で何が起こったのかを見に来ました。

ハーケン：アルベルト船長、ネグローナ号で来た巡礼者たちが合流してきました。人数が8人増えたので船を出してくださいよ。

ジャコポ・アルベルト船長:ほかに南に行く船がないようだね。いいでしょう！ヨッパまで行きましょう。一人20ダカット払ってもらえば、ヨッパで皆さんを待ち、キプロスまで帰りましょう。

【語り】そこで手を打ち、8月19日に一行はキプロスを発ちました。ヴェネツィア総督(Doge)の約束通り、イニゴは無料で乗船することが出来ました。